



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

水虫は治らない？

「水虫は治らない」多くの方は、このように思っておられるのではないのでしょうか？ 実はこれは誤りで、水虫が治りにくいのは、症状の強く現れるときは薬を塗っても、治まってくる薬を塗るのを止めてしまっからです。水虫は治ったように見えても、白癬菌はまだ角質の奥で生きていますので、しばらくは根気よく薬を塗り続けることが大切です。

水虫は白癬菌が皮膚表面の角質層に寄生して、角質層のケラチン質を侵すことによって炎症が起こり、かゆみが生じます。梅雨のころから急増して、夏ごろにはピークを迎えますが、近ごろはエアコンや床暖房の普及で季節性が薄れていますので、温度と湿度などの条件が合えば、冬でも白癬菌は活動しています。

かゆみ、皮膚がむける、発赤などの

症状があれば、まずは病院で診断してもらうことが大切です。同じような症状として、かぶれ、湿疹、カビの一種のカンジダによる症状などがあり、思い込みで水虫の薬を使用すると、皮膚のトラブルを複雑にして、治りにくくしてしまうこともありますので、注意してください。

水虫の薬には、殺菌、かゆみ止め、炎症を抑える成分が含まれており、抗真菌剤として塩酸テルビナフィン、硝酸ミコナゾールなど、抗白癬菌剤としてトルナフテート、クロトリマゾールなど、抗炎症剤（かゆみ止め）としてジフェニヒドラミン、リドカインなどが配合されています。軟膏、クリーム、液剤などの種類がありますので、カサカサした乾燥タイプ、ひび割れ、水泡、ジुकジुकしたタイプなど、症状に合わせて使い分けてください。また、爪の水虫には内服薬が処方されます。

水虫薬の使い方は、お風呂あがり

で皮膚が清潔で柔らかくなっているときに、水分をしつかりふき取ってから、患部を拭かないために外側から内側に向かって広めに塗ります。症状が治まったように見えても、しばらく続けて塗るようにしましょう。最近では、一日一回の塗布で効果のあるタイプがありますので、毎日根気よく使用することで治療することができます。

白癬菌は、温度と湿度の条件が合えば冬でも生きていますので、毎日足を丁寧に洗い、水分をしつかりふき取り、靴下は木綿のものを着用し、毎日履き替えてください。できれば素足でサンダルを履き、スリッパは自分のものを決めて、家族と共用しないようにします。また、バスマットはこまめに洗い、よく乾燥させてください。

治療と予防をしつかり行い、この季節をきれいな素足にサンダルで過ごしましょう。